

Best.01

ATオーバーホールついでに...

ATのオーバーホールをするなら、同時にミッションマウント、リアのクラクシール、ATクーラーホースなどを交換しておきたい。オーバーホールの際にはAT本体を降ろすので、ついでに周辺パーツも交換しておけば、二度手間にならずに済む。これらの消耗品はOEM品があるので、うまく活用すれば予算を抑えることも可能だ。



同時交換リスト

- ・ミッションマウント・リアクラクシール・ATクーラーホース

効率的メンテナンス Best5

同時交換のメリットが大きいポイントをランキング!!

基本的に大きくバラす必要がある部分は周辺パーツもリフレッシュしておいた方がよい。とくに W124 世代のベンツは全体的なメンテナンスが必要な時期に差しかかっている。

大きくバラす必要がある個所は周辺パーツも同時にリフレッシュ!



Best.02

デフオイル交換 ついでに...



エンジンオイル、ATFの交換時期に気が使う人は多いが、デフオイル交換を疎かにしている人が多いようだ。もちろんデフオイルも定期的に交換すべきポイント。漏れなどの状態を点検し、ひどいようであればシール類、さらについてにデフマウントも交換しておく効率的。

同時交換リスト

- ・デフシール・デフマウント

Best.03

ファンベルトの交換ついでに...

アイドリング時の「シュルシュル」という異音が出てきたらファンベルトの交換時期。テンショナー、アイドルプリー、W124 ならファンベアリングブラケットまでは一気に交換しよう。さらに言えば点火系もリフレッシュしておきたい。



同時交換リスト

- ・テンショナー・アイドルプリー・ファンベアリングブラケット

Best.05

エンジンハーネスの交換 ついでに...



同時交換リスト

- ・ブローバイホース

90年代のメルセデスではエンジンハーネスの交換時期を迎えたクルマが増えてきているが、同時にブローバイホースも交換しておきたい。

Best.04

ブレーキ系メンテナンスのついでに...



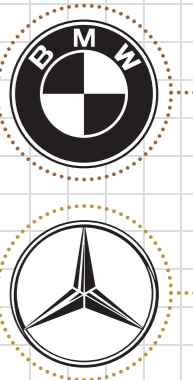
同時交換リスト

- ・ハブベアリング

ブレーキパッドの交換、キャリパーのオーバーホールなど、ブレーキ系メンテナンスのついでに、ハブのガタつきをチェックしておきたい。調整だけで改善する場合もある。

トラブルの発生率から愛車の弱点が見えてくる!

今年発生したトラブルポイント ワースト10



メルセデス・ベンツ、BMWそれぞれの修理工場で、今年発生したトラブルをランキングしてもらった。発生率をみれば愛車の弱点が見えてくる。まずはメルセデス・ベンツから見てゆこう。



2位

リレーモジュール

W210の前期、後期ともにトラブルが多かったリレーモジュール。様々な症状が発生するが、一番多いのはエンジンがかからなくなることだ。



1位

クランク角センサー

主に W210 に多いクランク角センサーの不良。アイドリング不調などの症状を引き起こす。パーツ自体は安く、交換も簡単なので費用はあまりかからない。

メルセデス・ベンツ編

Part.01

メルセデス・ベンツ専門修理工場「セントラルオート」の場合

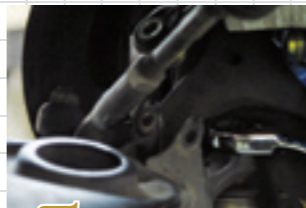
メルセデス・ベンツ専門修理工場としてクラシック、角目世代、そして現行モデルまで幅広い経験と知識を持つセントラルオート。チーフメカニックを務める児玉氏は、ユーザーの予算に合わせた適切なメンテナンスとアドバイスしてくれる心強い存在だ。



6位

AT不良 (機械式4速)

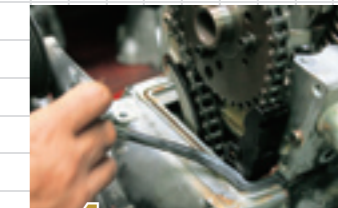
安心して乗り続けるためには避けて通れないATのオーバーホール。セントラルオートでは機械式4速の修理依頼が多いという。



5位

ボールジョイント

ブッシュ交換ついでに点検しておきたいボールジョイントの状態。ガタつきが出ているようであれば、同時交換が望ましい。



4位

オイル漏れ

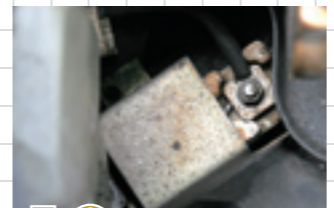
オイル漏れやしじみは定番のポイント。特に M112/113 エンジンのタペットカバーパッキンや、お約束のコの字シールからの漏れが多い。



3位

イグニッションレール

アイドリング不調やマフラーから「ポコポコ」という異音が発生したらイグニッションレールの不良が考えられる。W220 に多いパターンだ。



10位

ファンレジスタ

エアコンのスイッチを入れてもローファンが回らない時はファンレジスタのトラブルが考えられる。原因は内部の断線によるものが多い。



9位

触媒

交換サイクルが10年に1回と言われる触媒も、旧世代メルセデスでは交換時期に差しかかっているため、交換するケースが増えている。



8位

HMFユニット

電子制御世代のクルマのキモとなるCPUユニット。トラブルが起きなければ非常に賢いデバイスだが、壊れた場合の出費は大きい。



7位

ロアアームブッシュ

W210のロアアームブッシュ。劣化が早くW210の泣き所と言われるポイントだ。放置すると直進安定性が著しく低下してしまう。

セントラルオートの点検プログラム

1hマイカーチェックでユーザーから質問されることベスト5

「1hマイカーチェック」は各モデルのウイークポイントを重点的にチェックしてくれる点検プログラム。点検後にはカウンセリングしてくれるのだが、ユーザーからは何を聞かれることが多いのか。フロント兼チーフメカニックを務める児玉氏によると「やはり愛車の状態と予算についてはよく相談されます。あとは、嫁を説得するために説明して下さいと頼まれることもありますよ(笑)。もちろん連れてきていただければじっくりと説明します。修理だけでなく、ユーザーさんのカーライフの手助けもできればと思っていますから」とのこと。もし、下記にあるような疑問を感じていたら一度点検を受けてみよう。解決策が見つかるかも!

- 第1位 「このクルマにお金をかけても大丈夫でしょうか?」
- 第2位 「事故車じゃないですね?」
- 第3位 「この診断結果でいくらくらいかかる?」
- 第4位 「嫁を説得するにはどうしたらいいでしょうか?」
- 第5位 「何から直していけばいいですか?」



1hマイカーチェック(要予約)

問い合わせ: 03-3883-9922 価格: 10,290円 ※コンピュータチェック込み: 15,750円

旧世代ベンツは予防的なメンテナンスも行ないたい 同時交換のメリットは「予算の節約」と考えてしまふ人が多いが、それだけではなく、クルマを快適に維持するためにも大切なこと。トラブルの原因が特定できたら、その周辺も点検してもらって、劣化が見られるようであれば、予防的なメンテナンスを進めておいた方がよい。例えば、ATやエンジンのオーバーホールを行なう時は、シール類、ホース類、エンジンで言えば水回りなども同時にリフレッシュしておく効果的だ。ATやエンジン本体をしつ

かりとメンテナンスしても、周辺パーツの劣化や異常が原因で、新たなトラブルを引き起こすこともある。後回しになりがちな足回りは、ショックアブソーバーとアッパーマウント、ブッシュ類はできれば同時に交換しておきたいポイント。さらに予算に余裕があれば、ロッドやリンク類も一気に行ってしまう。それにはある程度の予算を用意しておく必要があるが、足回りは一度やっつてしまえば当分は大丈夫。メルセデスらしい乗り味を維持するためにも、修理個所の優先順位と同時交換のポイントを、メカニックと相談しながら進めていきたい。

高年式モデルに電氣的トラブルが開始している 今年セントラルオートに入庫したメルセデス・ベンツの中で、どんなトラブルが多かったのかを、チーフメカニックの児玉氏に聞いてみたところ上のような結果になった。入庫台数はW124がトップだが、次いでW210、W220などの比較的高年式モデルのトラブルも増えてきているようだ。高年式モデルで多いのが、アイドリングの不調、エンジンの始動不良など。メルセデスの場合、この手のトラブルは様々な要因で起こっていることが多く、原因を特定していく。その中で多いのがクランク角センサーの不良。W210ではこれが頻発した。ただし、交換作業は簡単で費用も安いのでさほど恐れることはない。そして最近増えてきているのが、リレーモジュールの不良。W124で言うところのオーバードレージーリレーのようなもので、これもエンジンの始動不良、アイドリング不調などを引き起こす。付いているヒューズには問題はなく、パーツ内部で断線してしまっている可能性が高いという。こうしたセンサーや電氣的トラブルを未然に防ぐには、後にも先にも定期的な点検が必要。児玉氏も「最近、調子が悪いのがガマンして乗っているユーザーさんが多いというのをよく聞きます。放置しておけば症状は悪化し、お金もかかってしまうので、そうなる前にクルマを見て下さい」と話す。弱点を把握したらまず点検。愛車の状態は常に確認しておこう。